

公告 昭 34.6.9 出願 昭 32.2.28 実願 昭 32-8479

考 案 者 吉 田 武 彦
 同 加 賀 弘
 出 願 人 横浜護膜製造株式会社
 代理人 弁理士 大 西 冬 蔵

東京都港区芝田村町5の9横浜護膜
 製造株式会社内

同 所
 東京都港区芝田村町5の9

(全2頁)

自転車又はモーターバイク用可撓性タイヤ

図 面 の 略 解

第1図は本実用新案可撓性タイヤの断面図、第2図はその針金ビードの断面を示している。

実 用 新 案 の 説 明

針金ビードを有する自転車タイヤ又はモーターバイク用タイヤでは普通ビードに単条又は複条の鋼線を使用し、その太さは単条の場合直径約1.8mm(15番線)、複条の場合直径約1.0mm(19番線)となつている。かような針金ビードのタイヤではタイヤを車輪リムに嵌め又は外す際、タイヤを使用するとき他物によつた際にビード部に曲りを生じ、タイヤの寿命を短縮する。又タイヤを輸送する際細包容器に大きな空間を要し、牽いて輸送費や保管費の累むのを免れない。

本実用新案はタイヤビードに可撓性の1本又は数本の鋼束を用い、この鋼束は極めて細い多数の素線を撚つたもので作られていて、自由に変形されうるが外力が除かれれば元の形に戻る利点があり、輸送又は梱包の際にも折り畳みができて、在来のものの欠陥を除いたものである。

本実用新案を図面について説明すれば、第1図においてタイヤ1はトレッド2、カーカス3及び

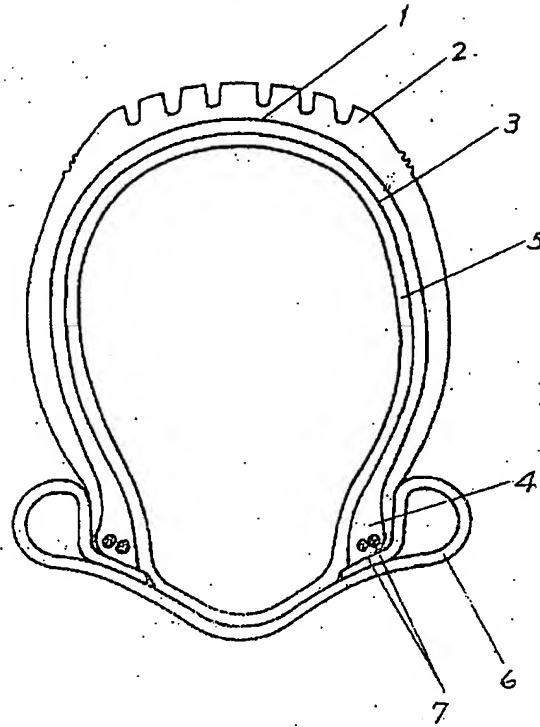
ビード4からなりタイヤ1の内側にはチューブ5を挿入し、このタイヤをリム6に嵌めている。チューブ5にはバルブが具えられ、これから空気をチューブ内に注入してタイヤ1を脹らませる。

ジードワイヤは可撓性の鋼束からなり各長鋼束は極めて細い。たとえば直径0.15乃至0.3mm程度の数本の素線を撚られた集合よりなつていて、これが又数本撚り合わせている。第2図はこの鋼束の断面で、素線8を数本撚つた撚り線9がその中心の撚り線10の周囲に再び撚り合わされたものからできている。ビードワイヤ7はかように数十本の素線8が何回にも撚り合わされているため自由に变形され可撓性を有しているので、これをタイヤビードをに用いたタイヤでは自由に变形されると共に、元の形に戻る利点がある。

登 録 請 求 の 範 囲

図面に示すように、ビードワイヤが直径0.15乃至0.3mm程度の数本乃至数十本の細き鋼素線8を撚り合わせてなる鋼束7を具えている針金ビードを有する自転車又はモーターバイク用可撓性タイヤの構造。

第1図



第2図

